

# 対象理解の深化につながる実習日誌のあり方に関する一考察

村田恵子 (就実大学), 大谷文乃 (新天地育児院)

## A Study of Student Teacher Diaries to Deepen Student Understanding of Children

Keiko MURATA(Department of Elementary Education)

Ayano Ohtani(Shintenchikujiin)

### 抄録

実習施設の一つである児童養護施設における保育実習 I について、施設と養成校とが協働して実習日誌の改訂・指導に取り組んだ。具体的には、施設における生活の流れを把握することに重点を置いた段階から、対象児を決め、一つの場面を取り上げ子どもの様子や援助のあり方について考察を深めることを課題とする段階まで、大きく3段階に分けて様式を変化させ指導を行った。学生たちの記述からは、今回の改訂・指導が、客観的にありのままの子どもを受けとめる方法としての記録の技法、観察の視点等の獲得に効果的であったことが確認された。

キーワード：実習日誌、対象理解、施設実習

### I はじめに

専門職養成課程における実習の重要性は、近年一層強調されているところであり、それは保育士養成においても同様である。実習の質を支えるツールとしての日誌のあり方や指導方法に関する研究成果も多く生み出されているが、その多くは保育所における実習日誌(実習記録)を対象としたものとなっている。一方、保育士養成課程における施設実習は、対象となる施設の種別が多岐にわたっており、実習内容も実習先によって大きく異なるという特徴がある。それぞれの違いに応じた指導の必要性も指摘されているが、実際には、多くの養成校が、いわば最大公約数としての指導を行わざるを得ない状況にあり、実習日誌の様式・指導についても同様である。しかしながら、実習の質を左右する実習生を対象(子ども)理解の深化を支えるものとしての日誌の意義は保育所と同様であり、それぞれの受け入れ施設の事情をふまえた様式や指導方法の工夫が求められていると考えられる。

本研究は、先行研究の成果に学びながら、養成校実習担当教員である筆者と、実習受け